

＜今朝の聖書から＞

村上定幸

【ナタナエル】今朝主人公として登場するのはナタナエルです。他の福音書には出てきませんし、ヨハネの福音書でも、最後でガリラヤ湖畔で復活の主が描かれている所の二か所だけです。ところが、少し聖書を読む生活をしている者にとっては、身近に感じられます。もっと沢山の箇所描かれているような感じがします。その理由の一つが、今朝の御言葉に掲げたことによるかもしれません。“この人には偽りが無い”と語られます。教会が大切にして来たことの一つの主はナタナエルに重ねて語られるのです。17章の6節に“世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました”と、祈りの中にありますが、ナタナエルもこの中にいたに違いありません。ナタナエルという言葉自体“神が委ねられた”というような意味ですから、ナタナエルは主が自分のことを名を指して、父なる神に祈られていることを聞いているのです。素晴らしいことですが、それは今も変わっていないのです。“私の名を指して主が祈ってくださっている”のです。私たちのことも、神が主に委ねられたのです。

【偽りが無い】ナタナエルは偽りのない人でしたが、私たちはなかなか“自分には偽りが無い”とは思えないのです。いや適度に偽っていることを知っているのが普通でしょう。また罪人であることも分かっているでしょう。あんまり話したくないような罪が多いのです。しかし主は私たちに“委ねられた者”である救いを与えてくださっているのです。“偽りが無い”というのは罪を犯さない、あるいは犯さなかったということと少し違うようです。詩編 32 に“いかに幸いなことでしょう、背きを赦され、罪を覆っていただいた者は、いかに幸いなことでしょう、主に咎を数えられず、心に欺きのない人は。”とあります。正しく“懺悔の祈り”を守ることのできる人を指しているといった方がいいでしょう。神様の真実に答えていくということでしょう。

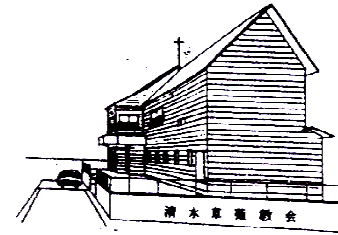
【神の子羊】今朝の聖書箇所は、ここから始まります、罪から始まっているのです。“（世の罪を取り除く）神の子羊”と、ヨハネは二人の弟子に主のことを示します。世の罪を見る者は神の子羊を見ますし、洗礼者ヨハネは、この罪を見続けていた人でした。

【出会った】初めに会った人々の物語ですが、二つの意味で出会ったという言葉が用いられています。弟子がメシヤに出会ったことと、その反対に主が弟子を、すなわち御自身に従うものを見出されたということです。41～42 節をみると、さっそく伝道するものに変えられているのです。ナタナエルもフィリポを見つけた（出会った）のです。そして紹介しているのです。

【主イエスを発見する】46 節に“するとナタナエルが、「ナザレから何か良いものが出るだろうか（そんなことはない）」と言ったので、フィリポは、「来て、見なさい」と言った。”とあります。これはつまずきですが、その中に主を見出しました。同じ躰きに気付きます。“これは大工の息子ではないか”と語る、聖書がユダヤ人と記す人々です。自らの罪を知るか知らないか大きく異なるのです。

週報

2012年 1月 15日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042